

2004 年度 第 20 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

RASA - アジアの農村と連帯する会

Rural Asia Solidarity Association

氏名 鄭 敬蘭 Jung Kyung Ran
国籍 韓国
大学 ルーテル学院大学



(留学目的)

2000年より高齢化社会に進入(2000年:7.1%)した韓国は急速に高齢化社会へ転換しながら、障害・痴呆老人など、要保護老人の問題が増えつつある。早い時期から老人保護を社会問題として認識してきた先進国では多様なケアや福祉サービス体系を形成しているが、韓国においては日本と同じような傾向で急速に高齢化が進んでいるため政策や社会的サービス面で難関に直面している。この面で見ると世界第一の長寿国としてすでに高齢者問題の深刻性を社会の大切な問題として認識し対処してきた日本の高齢者福祉政策から研究し、学び、韓国においての高齢者福祉政策・施策を決めていくのに日本の政策・サービス体系などを参考にしながらわが国にとって役立つ福祉体系の構築に必要な実践的課題を研究し、明らかにするために日本の留学を決心しました。

(研究課題)

高齢化の急速な進行によって現れた最も深刻な介護問題に対応するために設けられた「公的介護保障制度」が本来の役割を果たしているのかを確認するため、日本の介護保険制度の導入背景、実施されるまでの準備過程、現在までの実施における問題点などを、マクロの視点から、介護・サービスの質の保障、利用者の低負担、利用しやすい仕組みなどの方向で分析し、韓国の2007年から実施予定である「老人療養保障制度」の推進家庭や介護問題に関わる現状を見つめながら、両国の介護保障政策の円滑な遂行のために、それぞれの課題や展望を明らかにした上で、そのあり方を提示していきたい。

氏名 Sirirat Ngamsang
国籍 タイ
大学 筑波大学



(留学目的)

日本はタイと同じ東洋文化を持つアジアの国で、また日本の様々な教科、教材の発展性から、規律や規則を重んじる日本人の教育課程の実態はどのようなシステムになっているのか。その反面、道徳や倫理を教科として取り込まなかったために、昨今多発している青少年の諸問題から、タイの将来の教育制度に対して危険性が含まれていないか、日本の教育制度の短所長所をしっかりと見極めてみたいと考えています。

(研究課題)

研究課題：タイの東北地方における仏教の寺院の新たな役割

タイでは寺院は地方発展のための地域的な重要財産の一つである。タイの仏教寺院は宗教団体の宗教的の役割だけではなく、教育・文化保全・医療などの役割を担っている。現在急速な社会変化をしている段階、国際社会では、私の研究計画ではタイの東北地方において仏教寺院の新たな役割について焦点を当てている。

氏名 Yoon Seong Min
国籍 韓国
大学 東京大学



(留学目的)

大学の古典文学史の授業の時、初めて接した日本古典文学、中でも平安時代の日記や物語などの作品は、今では一言で言えないが、当時の自分に大きなショックを与えた。西洋の多様な小説や韓国の昔話及び小説などでは発見できなかった美しさや華やかさ、そして優雅さなどを自分なりに感じとったのである。それ以後、日本文学を本格的に勉強しようと思い、大学院へ進学した。韓国での大学院生活も相当、有益な時間であったが、一方では何となく物足りなさを感じた。やはり日本文学を勉強しているので、韓国ではある程度、限界もあり、また作品そのものだけでなく、作品の中で流れている美意識や作品全体の意図や影響などを確実に勉強し、身につけるためにも本場での勉強が一番望ましいと思われたからである。日本での留学を通しては単なる知識だけではなく、日本文化や日本人の意識など、様々な分野にわたって研究史、留学生活を終えて韓国へ帰った後、多様な日本の文学作品や美しい日本の文化などを韓国の人々に伝えたいと思う。

(研究課題)

韓国での修士課程では様々な分野にわたって研究されてきた『源氏物語』の中で、主人公光源氏の正妻である葵の上と女三宮、そして正妻格と呼ばれる紫上の3人が物語の全体の造形上、どのような意義や役割を果たしているかについて、卒業論文を提出した。これからは、これら韓国での研究をもとに、「平安文学にみられる家族」、特に『源氏物語』を中心に、「『源氏物語』にみられる家族」というテーマで勉強したい。日本文学の中で「家族」は常に主要なテーマの一つであった。神話・物語をはじめ、中世以後、現代文学にいたる多様な家族を扱った作品が数多くある。そして、特に『源氏物語』では400人以上の人物が登場し、主に恋の人間関係を中心に、複雑な家族関係を形成している。このような人間関係を考察してみることは、『源氏物語』自体の内容が分析できるとともに、平安時代の家族の様子や家族に関する平安時代の人々の考え方も察してみることができると思う。そしてこのような研究と一緒に、韓国古典文学作品の中での家族関係の研究も行い、古代両国の家族に対する意識が現代の家族意識にどのような影響を与えているかについても研究してみたい。

氏名 Htun Lwin Thida
国籍 ミャンマー
大学 早稲田大学



(留学目的)

日本はミャンマーと同じアジアの国でミャンマーより天然資源が少ないのに、どうして急に発展したのか理由を知りたい。日本とミャンマーは文化が似ていて同じ習慣や考え方があるので、この理由はミャンマーの発展にも応用できると思う。オンラインビジネスについても、日本の成功例はミャンマーにも応用できると思う。私は、1年間、国際大学のEビジネス経営学プログラムで、インターネットビジネスの勉強をした。しかし、情報技術は私の経歴の中で新しい分野なので、もっと勉強する必要がある。オンラインビジネスの会社を作って、ミャンマーの辺境地帯にすむ人たちの生活を発展させるために、GITS (早稲田大学大学院国際情報通信研究科) の勉強以外にも、日本の文化、言語、人々の考え方、生活習慣、労働環境なども勉強したい。

(研究課題)

UNDCP (国連薬物統制計画) のプロジェクトエリアであるミャンマーの辺境地帯にすむ人たちは、とても貧しく、ケシの栽培以外に収入を得る方法を知らない。しかし、プロジェクトエリアには素晴らしい伝統工芸品がたくさんある。インターネットを通じて伝統工芸品を世界中に販売できれば、プロジェクトエリアに住む人達はケシの栽培をやめて伝統工芸品によってよい収入を得ることができる。私は、オンラインビジネスの会社を作り、プロジェクトエリアに住む貧しい生産者と先進国に住む豊かな消費者を結びつける適切なネットワークとビジネスモデルをつくりたい。その為に、私はGITSで、情報技術がビジネス、経済、社会、人々の生活に与える影響、そしてアジアの中小企業がオンラインビジネスを始めたときに起こる問題と必要な政策、それから、世界標準化、ワイヤレス技術などを研究している。

氏名 ヤズデカスティ ファリバ
Yazdkhasti Fariba
国籍 イラン
大学 九州大学



(留学目的)

現在、私は異なる文化の社会でその国の言語をゼロから習い、今ではその言語を使って研究をしています。この経験は、自分の国でする研究とは違って、毎日新しい発見の連続で大変刺激的です。もちろん日本の研究について多くを学ぶ毎日ですが、それとともにその日本の研究を自国の研究と比較して考えることができ、私は他の人の 2 倍学んでいると言えると思います。イランに帰ってイランの学生に教えるようになったら、この研究における文化的な比較も学生に教えてやりたいと思います。そのような立場から、特に私の研究分野では今後ますます多くなるだろう研究を通じての国際交流を担っていきたいと思います。日本のように歴史が長く、研究に熱心な国に来ることができて、とっても幸せに思っています。

(研究課題)

私は博士論文のテーマとして、「小学校に在籍している発達障害児の学校不適応に対する臨床的援助」を研究しています。この研究では、特殊学級にいる ADHD や自閉症や知的遅れを持つ子ども達が学校場面で友達の関わりの中で示す問題に焦点を当てて検討しています。ここの研究によりセラピストとして子ども達の社会性能力を伸ばす援助をすることが可能であると考えられます。

氏名 C.D.H.M. プレマラトナ (Premaratna)
国籍 スリランカ
大学 一橋大学



(留学目的)

大学在学中、卒業論文のテーマとして社会言語学に関する研究を始めた。しかし、この時点でスリランカの大学においては、社会言語学に関する研究の歴史は浅く、実績も少なく、加えて指導教授の数が非常に少ないという現実にぶつかった。どうしても自分の希望する社会言語学の研究を続けるには、その専門分野の研究において、先進的な国へ留学する以外に方法はなかった。日本は、この分野の研究でもっとも先進的であること、また副専攻として日本語を勉強していたこともあり、日本を留学先を選んだ。

(研究課題)

多言語国家スリランカでは、独立語シンハラ語とタミル語両言語を公用語にすることを政策として予定されていたが、実際には 1956 年にシンハラ語のみを公用語として定められた。それによりタミル民族の反対運動が起こり、それが分離独立運動へと拡大し、現在までに 6 万人以上の両民族の命が失われた。言語政策と民族問題に関連した社会言語学的な研究は、スリランカにとって、国家的な課題であると思われる。しかし、研究者が少なく、研究も遅れているため、この分野での研究を進め、確実なものになりたい。

氏名 エクバル ユスフ

Aikebaier Yusufu

国籍 中国

大学 中央大学



(留学目的)

私が日本への留学を決意したのは、2003年2月28日にカシュガルで起きたマグニチュード6.8の地震でした。震災による死者266人、被災民3万300名と大きな被害を正しく感じました。このことから「是非日本で新しい技術を身につけ、故郷のため将来の後輩のために勉強したい。」と強く思って日本へ来ました。将来は自分が学んだ知識を生かして、故郷のための政策業務に携わりたいと思っています。

(研究課題)

私が中央大学で研究していることは「塩害」です。中国西部（新疆ウイグル自治区を含めた地域）における閉鎖性水系では、降水量に比べて蒸発量が極端に多く、塩類化が起こりやすいため、特に新疆の塩性・アルカリ土は総面積の約6.0%を占め、耕作可能地の30%に相当しています。このような災害を防ぐ対策に関心を持っています。

氏名 Simkhada Eak Prasad
国籍 ネパール
大学 筑波大学



(留学目的)

ネパールでは柿の「接木親和性」に大きな問題があり、成功率が十分に高くありません。従って良い果樹の苗が生産できないでいます。しかし柿に対する需要は大きく、政府も今後ネパール国内で柿を普及させようと考えています。私は今までのネパールでの技術者としての経験を生かし、柿の接木について研究史、ネパール国内での生産量の向上に貢献したいと考えています。そのために、柿に関して、また果樹に関して研究の進んだ日本に留学し、技術的な課題の克服について研究するために日本に留学いたしました。

(研究課題)

現在大学院博士課程で研究課題としているのは、日本で開発されている様々な接木方法と接木に伴う親和性を高めるための方法を分析することです。接木の親和性には化学物質が関係していることがすでにわかっているので、その化学物質を調べ、分子レベルでの親和性、不親和性を解析し、また苗の呼吸量や葉の水ポテンシャル、 ^{13}C の分析なども行うことで、接木に伴う様々な問題点の克服につなげられればと考えています。

氏名 烏力更（ウルゲン）
国籍 中国内モンゴル
大学 神戸大学



（留学目的）

大学卒業後故郷のモンゴル中学に十三年間、ずっとクラスの担任をしてきました。それでどうすれば子供の不登校、非行等色々の不適応行動を予防、うまく対応できるかを考えるようになり、そこで子供の心理発達にとって望ましい家庭、学校、社会のあり方について深興味を持ってできればその研究をしたいと念願してきました。中国における教育心理学の研究は日本と比べればはるかに遅れているため、内モンゴルで自分の夢を実現するには限界があります。そこで日本への留学を決心致しました。

（研究課題）「中学校における教育心理学」

クラスの担任として、子供たちをどのように指導するか解明していきたい。1．中学一年生二年生それぞれの心理変化と形態的身体発達について、2．家庭と社会、学校が子供にどのような心理的影響を与えるか、そこで子供のいじめ、暴力といった非行を予防できる方法を見つけ、最終的に中学一年生から三年生までの心理教育をベースに全面的に青少年の心理教育の研究をしたい。

氏名 金 寿蓮 (Jin, Shou lian)
国籍 中国
大学 東京学芸大学



(留学目的)

私は二度の日本留学を経験しています。初めは大学 4 年生の時、交換留学生として山形大学でお世話になった時。率直なところ、その一年間は日本語を覚え、早く日本の生活に慣れていくのに精一杯になって、自分からはっきりした目標はあまりなく、日本に留学できた喜びと憧れだけでした。しかし、その一年間の経験から一番心に残って二度目の留学の決心をさせたのは「弱者」への「気配り」のある日本の「安全な」ところでした。ここで私は「福祉」と初めて出会うようになり、これからの生活、仕事として身につけて行きたかったです。大学で教師になっても「日本に行って福祉」方面の勉強をしようと中国の社会現実の中で益々決心を固めることができました。そしていろんな「福祉」の分野の中でも「生活困窮者」の為の「扶貧救済」方面の勉強をしようと決心し、この何年間を頑張ってきたし、これからも一生懸命つとめていきたいです。

(研究課題)

「扶貧救済政策実施における『社区』の援助役割」を今後の研究課題としている。修士論文で中国の扶貧救済政策の実施を検討する際に「社区」と出会い、「community」とは若干違いを持つ極めて行政機関ではないが、民政部の政策実施に大きな役割を果たしている「社区」に興味を持つようになった。このような「社区」の援助役割はいかに発想されてきたか？どこまでを役割分担すればいいのか？社区援助の問題点は何であろうか？Communityとしての「社区」のあり方は何であろうか等を問題意識としている。